



第9回総会時教育セミナー



2月12日(日)、オンラインにて、研究会の総会と総会時セミナー、懇親会が開催されました。「犬の攻撃行動」をテーマとしたセミナーの当日参加者は140名を超え、非常に有意義な時間となりました。

参加者の先生から、セミナーと懇親会の様子についてご感想をいただきましたのでご紹介させていただきます。

講義：「犬の攻撃行動～概論～」 講師 白井春佳先生

症例発表：①「攻撃の発生予防が奏功したミックス犬の一例」 奥田順之先生

②「全般性不安障害を併発していた犬の飼い主に対する攻撃行動」フリッツ吉川綾先生

コメンテーター：藤井仁美先生、白井春佳先生 / **司会進行**：近藤悦子先生



症例発表 「攻撃の発生予防が奏功したミックス犬の一例」を聴講して

奥田先生のセミナーでは、攻撃行動が起きる状況を作らないことの重要性とそのための具体的な方法をご教授いただきました。セミナー前半では、攻撃行動の発生予防法について「生活環境を変える」及び「生活習慣を変える」という二つの観点から知識を整理しました。セミナーの後半では、ハウスを活用して人間と犬の行動範囲を分ける、食事場所や与え方を変更するなど、実症例を取り上げながら具体的な手法とその効果をお示しいただきました。

私自身、診療中に「『攻撃行動が起きる状況の回避』は攻撃が起きるのをただ避けているだけで、根本的な解決にならないのでは？」という質問を飼い主様から頂くことがあります。今回のセミナーで、攻撃行動が起きる状況を作らないことは攻撃行動の悪化を防ぎ行動修正を進めるために非常に重要なステップであり、その意義を飼い主様に丁寧に説明すべきであると再認識しました。また、行動修正と異なり実施者の技術に依存しないという大きな利点があり、治療の導入として飼い主様に取り組んでいただきやすいと感じました。

大変勉強になるセミナーを実施して下さった奥田先生をはじめ、教育セミナー及び総会を企画・運営して下さった先生方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

山田良子（東京大学）

症例発表 「全般性不安障害を併発していた犬の飼い主に対する攻撃行動」を聴講して

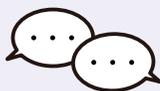
私が勤務している病院で最も多い相談の一つが家族に対する攻撃行動です。今回、吉川先生がセミナーでお話していただいたような症例はよく遭遇する相談で、とても勉強になりました。実際に、攻撃行動を誘発する刺激が複数あり、攻撃行動も頻回にあるという状況は決して珍しい状況ではなく、このような状態になってしまってから相談に来られる飼い主様が多いと感じています。

吉川先生の丁寧な問診により、状況が理論的に整理されていて解説が非常に分かりやすかったです。お話を聞いているだけで、どのような状況なのかが容易に想像できました。特に鑑別診断から確定診断への説明と解説が学ぶところが大きかったです。グラフを使って可視化すると治療の効果がすごく分かりやすく、今後の治療の進め方にすごく有用であると感じました。

私自身もこのように理論立てて問題を整理し、治療の方向性を常に確認しながら診療を勧めていくことを心掛けていきたいと思いました。最後に、今回このような勉強の機会を作っていただきありがとうございました。

井立由起子（犬山動物総合医療センター）

懇親会の感想



懇親会は、最初に全員の簡単な自己紹介、他の先生とお話してみたい内容をチャット欄に書いてから、5～6人のグループに振り分けてのセッションを3回実施しました。それぞれのグループでは若い先生が進行役になると予め決まりになっていて、とてもスムーズに会話が始められました。認定医・研修医・プラクティショナーの先生から入会したばかりの先生まで、行動学を大切に思ういろいろな立場や経験の方とお話しすることができました。対面の懇親会では人見知りが発動してしまって声かけに躊躇してしまうのですが、今回の懇親会ではそれが全くなくお話しできたのがオンラインならではの良さだと感じました。

行動学の実践をまわりのスタッフさんにどう広めていращやるか、行動診療のコスパをよくする工夫についてお話しをお伺いしました。みなさん、私が困っていることに共感してくださった上で、それぞれにご苦労されたり、工夫されていращやることをお話しくださり、私もやってみよう！と元氣と勇氣と具体的な策を授かりました。

お話ししていただいた先生方、参加しやすく工夫してくださった先生方、ありがとうございます。またお話できる機会を楽しみにしております。

杉井めぐみ

開業準備をし始めたころだった私は、診療システムや料金設定など運営に関して何か聞けるといいなと思いながら、懇親会に参加しました。ブレイクアウトルームでは、何か話題にしたい事や他の先生に聞いてみたい事があれば、自由に発言することが出来ました。ご家族のお悩みやご自身のペットについてといったプライベートな事から、フォローアップの仕方や収入をどう増やしていくかといった仕事の事まで、皆さんざっくばらんに話されていました。組替えがあることで、今までお話ししたことの無かった先生方とも話すことができ楽しかったです。

画面上ではありますが、数年ぶりにお会いできた先生に心温まり、新たに出会った先生のSNSに刺激を受け、行動学が好きな先生がこんなにもいることを心強く思いました。私がまだ臨床2～3年目だったころ、院長や先輩の先生方も行動学は詳しくなく、本とらめっこしながら症例を診ていました。相談相手がいるのは本当に頼もしいものです。懇親会に躊躇されている若手の先生がいたら、ぜひぜひ参加されてみてください。みなさん優しいですよ。これからも犬猫の心の健康に貢献できるよう頑張ろうと思えた一日でした。貴重な機会をありがとうございました。

小野寺智香

懇親会はアットホームな雰囲気、普段おしゃべりする機会のない先生方のプライベートな一面を垣間見ることのできる楽しい時間となりました。来年は対面でお会いできますようように☆



認定医の先生に聞いてみた！

No.2 椎木亜都子先生

行動学コラム第2回はペット問題行動クリニック BLISS の椎木先生に『往診のメリットと苦労』について聞いてみました☆

会員の皆さま、こんにちは。認定医の椎木亜都子(旧姓菊池)です。

現在、私は家庭に訪問して行動診療を行う往診を専門に活動しています。2017年に開設した頃は、月に2~3件しか依頼が来ず、飼い主さんに認知してもらうのにとっても苦労しました。あれから6年、少しずつですが依頼も増え、おかげさまで何とか往診に専念できるようになりました。

皆さまもご存知の通り、行動診療には、外来として診療施設で行う院内診療と、往診して家庭で行う訪問診療の2つの形態がありますが、私自身も個人で往診をしながら、昨年まで大学病院という診療施設で外来を担当していたので、両方の診療形態を経験したことになります。今回は、そういった経験を踏まえて、私が感じた往診のメリットや苦労したことについてお伝えしたいと思います。

往診のメリットはたくさんありますが、何といっても犬や猫のリアルな生活環境を自分の目で確かめられることでしょうか。室内の環境はもちろんですが、外から聞こえてくる音や室内から眺められる景色まで、犬や猫と同じ目線で体験することができます。普段の生活の様子やお気に入りの場所なども、往診をするとすぐにわかります。さらに、一緒に近所を散歩することもできるので、普段の散歩コースでの様子はもちろんですが、散歩前後の様子も直接観察することができます。院内診療では、動画を撮ってきてもらって確認する方法がありますが、撮影自体が難しい飼い主さんの場合には、非常に効率的です。

また、院内診療と比較して、往診は飼い主さん自身もリラックスしやすいかもしれません。私に獣医師のオーラがないだけかもしれませんが、まるで近所の人がおしゃべりしに来たかのような雰囲気(ちなみにカジュアルな私服で伺います)、雑談を交えながらもさまざまな有益

情報を話してくれます。これらはまさに往診ならではのメリットと言えます。

それから、行動治療にはあまり関係ありませんが、往診していなければ決して行くことはないであろう場所に行けるのも、密かなメリットだと思っています。初めて乗車する路線や降りる駅、そして初めて歩く街には、意外な発見もあり、いい刺激を受けます。もちろん、往診を依頼するという事は、病院に連れて行けないほど問題行動がひどいといった深刻なケースも多々あります。しかし、独りで行動診療をしていると、同僚に話を聞いてもらうこともできず(大学病院で働いていた頃は助けてもらいました)、重苦しさを抱えてしまうこともあります。そんな時だからこそ、帰りにその場所で美味しいものを食べて、気持ちを切り替えるようにしています。

往診で苦労する点として真っ先に思い浮かぶのは、やはり移動に時間が取られることでしょうか。遠方の往診が多いため、カウンセリングの時間より往復の移動時間の方がかかることがほとんどです。今よりもっと体力があった頃は、一日で4件まわったことがありましたが、さすがに限界を感じたため、今は基本的に一日1件のみ受けることにしています。院内診療であれば、一日にもっと多くの症例を効率的に診察することが可能ですが、カウンセリングに時間をかける行動診療の往診では厳しかったです(私の体力と気力が足りないだけかもしれませんが)。結果として、一つ一つの症例とじっくり向き合えるようになり、今のスタイルが合っているようです。とはいえ、その分の収入は当然減ってしまうため、今後は往診の効率化を検討する必要がありそうです。

いかがでしたか。今回のコラムでお伝えできたのはほんの一部ですが、少しでも往診に興味をお持ちの先生方のご参考になれば幸いです。

会員の窓

会員の日々を切り抜いて自由にご発信をいただく「会員の窓」コーナー。今回は、磯見優先生から→川畑動物病院の岸野友祐先生にバトンが渡りました！

若手に貴重なバトンを回して頂き、ありがとうございます。私は、前職の動物愛護センターの話をしたと思います。

私は監視担当という、ブリーダーやペットショップ、動物カフェなどが、動物愛護法に定められた基準を遵守しているかを監視・指導する部署にいました。監視担当の獣医師は15名程度でしたが、監視対象の店は、私がいた東京都には5,000軒以上もあり、店に対する苦情は年間300件もありました。

また、監視対象である動物種の多さは驚くほど多岐に渡ります。犬猫だけではなく、すべての哺乳類、鳥類、爬虫類…つまりウサギやフクロモモンガ、ブンチョウやフクロウ、カメやトカゲなど全てが対象です。そしてこの多種多様な動物たちは、販売や訓練のために一時的に飼育されたり、繁殖や展示のために生涯にわたって飼育されたり、公衆の場にいることもあれば、公にできることのない環境で飼育されていたり、本当にさまざまな環境に置かれています。

これらの動物が店で適切に管理されているかを判断する「基準」は、動物愛護法により定められています。これには具体的に数値で定め

られたもの（犬猫のケージの大きさ、繁殖や離乳の年齢など）もあれば、具体的には定められていないもの（「販売の方法は—（略）—その生態、習性及び生理に配慮した適切なものとする。」など）もあります。しかし、基準を隅々まで把握したとしても、指導は簡単ではありません。店にも生活があります。業務改善や設備・人材への投資はさまざまな理由で難しいこともあります。そして何より、その道を何十年も生きてきたプロを相手に、それを提言しなくてはいけないのです。

動物愛護法の監視業務は非常に多くのスキルが求められるとても専門性の高い仕事であり、多種多様な動物が、健やかに暮らせるかを判断するという点で獣医師の責務の真髄ともいえる業務でした。ではなぜ私は辞めて臨床の世界に飛び込んだかということ…けれどもこれは別の話。いつかまた、機会があれば、お話をさせて頂きましょう。

岸野先生、ありがとうございました！
次はあなたにバトンが届くかも…。
バトンが回ってきた際はどうぞ楽しんでお引き受けください。

研修医紹介

①氏名(敬称略) ②所属 ③診療をおこなっている都道府県 ④出身大学(研究室)
⑤好きな動物 ⑥座右の銘 or 好きな言葉 ⑦趣味 or マイブーム ⑧一言

2022年に研修医となられた先生をご紹介します。

①堂山有里

②バーニー動物病院、バーニー動物病院千林分院
③大阪府
④麻布大学(病理研究室)
⑤猫
⑥壁は自分自身だ。

⑦昨年のワールドカップからサッカー観戦にはまっています。また茶道が好きで細々と続けています。
⑧一般診療と行動診療を並行させています。動物に恐怖を与えない診療がスタンダードとなることが目標です。どうぞよろしく願いいたします。

推薦図書がバージョンアップしました!



研究会の推薦図書がバージョンアップしました。行動学を学ぶのに最適な書籍の一覧です。
是非、手元にない本は取り寄せていただき、勉強に活用してください♪

📖 飼い主さまへの推薦図書

<読みごたえのある本: 理解しながら腰を据えてじっくり読む必要がある本です>

- ・「困った行動」がなくなる犬のこころの処方箋 / 村田香織著 / 青春出版社 / 2022
- ・猫の困った行動 予防&解決ブック / 藤井仁美著 (水越美奈監修) / 緑書房 / 2020
- ・ネコの博物図鑑 / Brown S 著 (角敦子訳) / 原書房 / 2020
- ・イヌの博物図鑑 / Miklosi A 著 (小林朋則訳) / 原書房 / 2019
- ・こころのワクチン 第2版 / 村田香織著 / バレード / 2016
- ・イヌに「こころ」はあるのか / 遺伝と認知の行動学 / Coppinger R, Feinstein M 著 (柴田譲治訳) / 原書房 / 2016
- ・日本の犬 / 菊水健史ら著 / 東京大学出版会 / 2015
- ・猫的感觉 / 動物行動学が教えるネコの心理 / Bradshaw J 著 (羽田詩津子訳) / 早川書房 / 2014
- ・あなたの犬は「天才」だ / Hare B, Woods V 著 (古草秀子訳) / 早川書房 / 2013
- ・犬から見た世界—その目で耳で鼻で感じていること / Horowitz A 著 (竹内和世訳) / 白揚社 / 2012
- ・犬はあなたをこう見ている —最新の動物行動学でわかる犬の心理 / Bradshaw J 著 (西田美緒子訳) / 河出書房新社 / 2012
- ・動物が幸せを感じるとき 新しい動物行動学でわかるアニマル・マインド / Grandin T, Johnson C 著 (中尾ゆかり訳) / NHK 出版 / 2011
- ・うまくやるための強化の原理—飼い猫から配偶者まで / Pryor K 著 (河嶋孝、杉山尚子訳) / 二瓶社 / 1998

<楽しく読める本: さらっと読んででもわかりやすい本です>

- ・イヌとネコのふしぎ 101 いちばん身近な動物たちの体と行動と心のなぜ / 武内ゆかり著 / 偕成社 / 2016
- ・犬のココロをよむ—伴侶動物学からわかること / 菊水健史、永澤美保著 / 若波科学ライブラリー / 2012
- ・はじめてでも失敗しない愛犬の選び方—室内犬から大型犬まで、性格と飼い方がよくわかる / 武内ゆかり著 / 幻冬舎 / 2007
- ・なるほど! 犬の心理と行動—獣医学と動物行動学でよくわかる犬の気持ちと行動の意味 / 水越美奈監修 / 西東社 / 2003
- ・うちの猫が変だ! / Dodman NH 著 (池田雅之、伊藤茂訳) / 草思社 / 1999
- ・うちの犬が変だ! / Dodman NH 著 (池田雅之訳) / 草思社 / 1997

📖 臨床獣医師に役立つ行動学関連の推薦図書

- ・パピークラス&こねこ塾スタートブック / 村田香織著 / エデュワードプレス / 2019
- ・犬と猫の問題行動の予防と対応 動物病院ができる上手な飼い主指導 / (水越美奈監修) / 緑書房 / 2018
- ・ファームプレス MVM 11月号 (行動学特集) 165号 (2016) / 武内ゆかりら著 / ファームプレス / 2016
- ・ファームプレス MVM 11月号 (行動学特集) 158号 (2015) / 武内ゆかりら著 / ファームプレス / 2015
- ・イヌの動物行動学 / 行動、進化、認知 / Miklosi A 著 (藪田慎司訳) / 東海大学出版部 / 2014
- ・動物行動学—獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 / コア・カリキュラム準拠 / 森裕司ら著 / インターズー / 2012
- ・Low Stress Handling Restraint And Behavior Modification of Dogs & Cats (洋書) / Sophia Yin 著 / Cattle Dog Pub. / 2009
- ・犬と猫の行動学—基礎から臨床へ / 内田佳子、菊水健史著 / 学窓社 / 2008
- ・臨床獣医師のための猫の行動学 / Beaver BV 著 (森裕司監訳) / 文永堂出版 / 2006
- ・ドメスティック・キャット—その行動の生物学 / Turner DC, Bateson P 著 (森裕司監修) / チクサン出版社 / 2006
- ・ザ・カルチャークラッシュ—ヒト文化とイヌ文化の衝突 動物の学習理論と行動科学 / Donaldson J 著 (水越美奈監修) / レッドハート / 2004/2013
- ・ドメスティック・ドッグ—その行動・人との関係 / Serpell J 編 (森裕司監修) / チクサン出版社 / 1999

📖 行動診療に携わる獣医師、認定医受験に向けて勉強をしたい獣医師への推薦図書

(※認定医試験問題が推薦図書のみから出題されるわけではありません。)

- ・一般診療にとりいれたい犬と猫の行動学 (第2版) / 日本獣医動物行動研究会 (監修) / ファームプレス / 2021
- ・Small Animal Veterinary Psychiatry (洋書) / (S.Denenberg 監修) / CAB International / 2021
- ・Veterinary Psychopharmacology second edition (洋書) / (Sharon L. Crowell-Davis 監修) / Wiley-Blackwell / 2019
- ・Blackwell's Five-Minute Veterinary Consult Clinical Companion: Canine and Feline Behavior Second Edition (洋書) / (Debra F. Horwitz 監修) / Wiley-Blackwell / 2018
- ・ストール精神薬理学エッセンシャルズ 神経科学的基礎と応用 第4版 / 仙波純一監訳 / メディカルサイエンスインターナショナル / 2015
- ・Feline Behavioral Health and Welfare (洋書) / (I.Rodan and S.Heath 監修) / Saunders / 2015
- ・伴侶動物の臨床病理学 第2版 / 石田卓夫著 / 緑書房 / 2014
- ・Stress and Pheromone therapy in Small Animal Clinical Behaviour (洋書) / (D.Mills, M.B.Dube, H.Zulch 監修) / Wiley-Blackwell / 2013
- ・臨床行動学—獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 / 森裕司ら著 / インターズー / 2013
- ・Behavior Problems of the Dog & Cat Third Edition (洋書) / (G.Landsberg 監修) / Elsevier / 2012
- ・小動物臨床のための5分間コンサルタント 犬と猫の問題行動 診断・治療ガイド / Horwitz DF, Neilson JC 著 (武内ゆかり、森裕司監訳) / インターズー / 2012
- ・脳とホルモンの行動学—行動神経内分泌学への招待 / 近藤保彦編 / 西村書店 / 2010
- ・動物病院における獣医行動学の適用と展望 サンダースベテリナリークリニクスシリーズ4-5 / Landsberg GM, Horwitz DF (武内ゆかり監訳) / インターズー / 2009
- ・BSAVA 犬と猫の行動学マニュアル—問題行動の診断と治療 / Horwitz DF Mills D Heath S (工垂紀訳) / 学窓社 / 2007
- ・メイザーの学習と行動 / Mazur JE 著 (磯博行訳) / 二瓶社 / 2008
- ・エクセレラティブ・ラーニング—「イヌの学習を加速させる理論」 / Read PJ 著 (大谷伸代監訳) / レッドハート / 2007
- ・獣医精神薬理学 / Crowell-Davis SL 著 (小久江栄一訳) / ファームプレス / 2007
- ・臨床獣医師のためのイヌとネコの問題行動治療マニュアル / 武内ゆかり、森裕司著 / ファームプレス / 2006
- ・ビネル バイオサイコロジー—脳心と行動の神経科学 / Pinel JJPJ 著 (佐藤敬久訳) / 西村書店 / 2005
- ・動物行動医学—イヌとネコの問題行動治療指針 / Overall KL 著 (森裕司監訳) / チクサン出版社 / 2004
- ・アニマルラーニング—動物のしつけと訓練の科学 / 中嶋定彦著 / サイエンス社 / 2002
- ・役立つ、身につく、自信がつく「新入社員常識」新訂版 / SMBC コンサルティング株式会社著 / SMBC コンサルティング株式会社 / 2002
- ・学習の心理 / 実森正子、中嶋定彦著 / サイエンス社 / 2000



ニュースレター No.24 発行者: 日本獣医動物行動研究会 広報委員会